新病院長に聴く

第18回

独立行政法人地域医療機能推進機構
徳山中央病院 院長
沼　　文隆　先生

1．病院の紹介

当院は山口県東部の周南市に位置し、高度急性期医療を担う519床の地域医療支援病院です。昭和21年に現在の周南市速玉町に社会保険病院として設立され、長年にわたり諸先輩方の努力により、地域の基幹病院としての体制を整えてきました。昭和35年には総合病院社会保険徳山中央病院と改称され、昭和51年に現在の孝田町に移転しました。平成26年4月に全国の社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の３つの民間病院群（57病院）が統合され、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）に移行し、当院もJCHO徳山中央病院として再出発しました。JCHOに移行しましたが、高度急性期医療を担う地域支援病院としての役割は変わっておらず、国からの運営交付金のない独立採算制です。本年で79周年を迎えます。

救命救急センターを有し、周南医療圏の人口約24万人（下松市、光市、周南市）、さらに周辺地域も含め、１次から３次救急まで年間約5,600件の救急車搬送を受け入れています。令和５年度の実績は、外来患者数1,300名/日、入院患者数442名/日、年間手術件数6,009件、緊急手術件数1,141件でありました。

現在、34診療科を有し、救命救急センター、災害医療センター､地域周産期母子医療センター、小児救急医療拠点病院、へき地医療拠点病院、がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院として、５疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）６事業（救急医療、災害時における医療、へき地医療、周産期医療及び小児医療、新興感染症等の感染拡大時における医療）すべてに取り組んでおります。多くの学会認定施設となっており、最近ではNIPT（非侵襲的出生前遺伝学的検査）を実施する認証医療機関（基幹施設)、IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設、及び日本脳卒中学会一次脳卒中センターコアにも認定されています。ロボット手術も泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、婦人科で積極的に行っています。

また、感染症指定病院としても12床の感染病床を保有しており、令和２年から続く新型コロナ感染症禍では、COVID-19患者さんの治療はもとより、感染患者さんの透析、分娩、緊急手術にも対応しました。全職員の懸命の努力により病院の機能を中断することなく維持することができましたが、その節には行政機関、山口大学病院、医師会をはじめ関連医療機関のご理解、ご協力、ご支援を賜りました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

2．病院長としての抱負

周南医療圏では、現状の病床数と必要病床数とに差異が指摘されてはいるものの、高度急性期・急性期機能の集約化や不足する回復期への転換が行われるなど、将来の医療需要を見据えた医療機

能の役割分担･連携の取り組みが進展しています。当院はこれまで地域のニーズに応えながら設備、技術の高度化を図り､診療の幅を拡げてきました。地方であっても先端的で高度な医療を提供できるよう職員一同日々切磋琢磨しております。

昨年４月からは松永和人 山口大学医学部附属病院長の全面的なご支援のもと、呼吸器内科常勤医を派遣していただき､５月には放射線治療科を、７月には呼吸器外科を正式に立ち上げました。これにより、山口県東部における呼吸器疾患治療のレベルが格段に向上しました。

懸案であった建物老朽化（一部現在の耐震基準不適合）問題ですが、令和３年から新棟建設工事に着工し、Ⅰ期工事が終了し、昨年５月に外来棟をオープンしました。地域の医療を守り、災害に強い病院を目指しています。何分にも当院の敷地面積が狭いため一括での工事ができません。Ⅱ期工事終了は来年春ごろを予定しています。

また昨年６月をもって老健のサービス提供を終了しました。今後は急性期医療・専門医療にエネルギーを集中してまいります。老健閉鎖は残念でなりませんが、これも時代の流れと思っております。老健運営中、関係者各位には大変お世話になり、ありがとうございました。感謝申し上げます。

3. 研修システム

当院では、救急医療の研修に特に力を入れています。入職直後の１か月間、最初に学ぶのは救急医療研修です。救急医療の講義・実習を合わせて約70コマに及ぶ研修は、現場で率先して業務を遂行できるよう、各科でプロデュースされた実践的な手技を中心に行われています。受け身的な座学ではなく、現場で本当に必要とされる初期対応の基礎を徹底的に身につけることができるので、その後に始まる当直や、ローテーションを行う各科で、慌てることなくスムーズに研修することができ、より深く学んで次のステップに進めます。

救急医療研修が修了すると、見習い当直を数回経験し、まもなく救急外来当直が始まります。救急外来では、１年次、２年次研修医がまずファーストタッチを行い、内科系、外科系当直医が研修医をバックアップしながらともに診療にあたります。また全診療科のバックアップがあるため、必要時にはすぐに応援を依頼することができます。モーニングカンファレンスは毎朝、ケースカンファレンスも週１回開催しています。複数の指導医が参加し、当直中の対応の問題点や改善点が討論され、自分の当直だけでは経験できない症例も、カンファレンスを通じて共有することができます。

当院の救命救急センターは、24時間稼働するER（救急室）とドクターヘリを活用し、救急患者を受け入れています。来院する患者の疾患は多岐にわたります。１次から３次救急まで幅広く対応しており、医師として大変貴重な経験を積むことができます。１年目は主に必修科をまわり、２年目は研修を希望する科を自由に組むことができるのも当院研修の特色です。これからもよりハイレベルな臨床研修ができるように取り組んでまいります。

最後になりましたが、研修に際しまして、山口大学医学部附属病院をはじめ、精神科研修では愛命会泉原病院、山口県立こころの医療センター、地域医療研修では多くの病院並びに開業医の先生方に絶大なるご協力をいただいております。厚くお礼申し上げるとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。